

兵庫県産ハバチ・キバチ類の追加記録

吉田浩史¹⁾

はじめに

筆者らは2004年に、兵庫県産のハバチ類相として11科331種の記録を報告した(内藤ら, 2004)。その後約10年が経過し、新たに県内から確認された種や、発行当時見落としていた種等があるので、ここに報告する。

また、内藤ら(2004)以降の文献による新記録種及び分類学的再検討が行われた種についても、ここに記録しておく。ただし、すでに県内から記録のある種の追加記録や、単なる学名の変更等については今回は対象外とした。これらに伴い、現在兵庫県から記録のあるハバチ亜目は360種となった。

標本閲覧の際に便宜を図っていただいた篠原明彦博士(国立科学博物館: NSMT)、松本吏樹郎学芸員(大阪市立自然史博物館: OMNH)、ならびに貴重な標本をご提供いただいた森本健太郎氏、下野誠之氏にお礼申し上げる。

内藤ら(2004)の訂正

Tenthredinidae ハバチ科

Allantinae ハグロハバチ亜科

Megabeleses crassitarsis Takeuchi, 1952

コブシハバチ

内藤ら(2004)において、本種の分布は「北海道、本州、九州」とされている。北海道の記録はTogashi(1997)からの引用としたが、これはWei(2010)において指摘された通り、*Megatomostethus crassicornis*(ヒゲブトマルハバチ)の記録を本種と誤認したためである。

これは内藤ら(2004)の作成時に本文編集を担当していた吉田のミスであり、ここに訂正しお詫び申し上げる。

なお、ウェブ上では、北海道から本属の幼虫が記録されているが、成虫が未確認のため同定には問題があるとされており、現時点では、本種の確実な記録は本州及び九州のみのようである。

また、上記の通りヒゲブトマルハバチの分布から北海道が欠落している。

Tenthredininae ハバチ亜科

Armitarsus watanabei Shinohara, 2002

【文献記録】篠山市, 温泉町畑ヶ平(内藤ら, 2004; コシジロトゲアシハバチとして記録)。

内藤ら(2004)におけるコシジロトゲアシハバチ *A. albicinctus* Takeuchi, 1933の記録は、Shinohara(2002)の見落としによる本種の誤同定に基づくものであり、コシジロトゲアシハバチの兵庫県からの記録は削除する。

新記録種等

Xyelidae ナギナタハバチ科

Xyela japonica Rohwer, 1910

ナギナタハバチ

【分布】本州(Blank *et al.*, 2005)。

【標本記録】(西宮市~宝塚市) 阪急電鉄今津線車内, 仁川駅周辺で確認, 1 ♀, 2007. III. 31, 下野誠之。

【備考】電車内で確認されたため、厳密には兵庫県産とすべきか疑問が残る。阪急電鉄今津線は兵庫県内のみを通る路線であり、他府県を通過しないが、ハバチが人や荷物等に付着して電車を「乗り継いだ」可能性も否定できない。

このため、今回は標本記録を挙げるのみとして兵庫県産の種数に含めない。

Xyela tecta Blank & Shinohara, 2005 (図1)

【寄主植物】アカマツ / 花粉(Blank *et al.*, 2005)。

【分布】本州, 伊豆大島(Blank *et al.*, 2005)。

【標本記録】三田市有馬富士公園, 250m, 2 ♂, 2007. IV. 7, 吉田浩史。

【備考】Blank *et al.* (2005)により、従来マダラナギナタハバチとされていた種にはきわめて近縁な2種(本種と次種)が含まれていることが報告された。内藤ら(2004)による次種の報告には、その後に記載された本種が混在する可能性がある。

なお、今回示したように両種は混生しており、同時に採集されることも少なくない。

¹⁾ Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区

Xyela variegata Rohwer, 1910

マダラナギナタハバチ

【寄主植物】アカマツ / 花粉 (Blank *et al.*, 2005).

【分布】本州, 伊豆大島 (Blank *et al.*, 2005).

【標本記録】三田市有馬富士公園, 250m, 6 ♀, 2007. IV. 7, 吉田浩史.

Argidae ミフシハバチ科

Arge aenea Hara & Shinohara, 2008

アカガネチュウレンジ

【寄主植物】飼育下ではダケカンバ (Hara & Shinohara, 2008).

【分布】北海道, 本州, 四国, 九州; ロシア極東, 朝鮮半島, 中国 (Hara & Shinohara, 2008).

【文献記録】氷ノ山, 扇ノ山 (Hara & Shinohara, 2008).

【備考】従来ドウガネチュウレンジ *A. metallica* (Klug, 1834) として国内から記録されていた種である。内藤ら (2004) においても同名で2オスが記録されているが, いずれもメスの誤りであった。

Hara & Shinohara (2006) は, *A. metallica* をトゲチュウレンジ属 *Spinarge* に移し, 日本には分布しないとした。

Arge aruncus Hara & Shinohara, 2012

コクロチュウレンジ

【寄主植物】ヤマブキショウマ (Hara & Shinohara, 2012).

【分布】北海道, 本州 (Hara & Shinohara, 2012).

【文献記録】畑ヶ平 (Hara & Shinohara, 2012).

上記記録は, 内藤ら (2004) においてウンモンチュウレンジとして記録されたものが含まれる (Hara & Shinohara, 2012).

Arge enodis (Linné, 1767)

ヤナギルリチュウレンジ (図 2, 3)

【寄主植物】ヤナギ類 (Shinohara *et al.*, 2007).

【分布】本州; ヨーロッパ, トルコ, コーカサス, シベリア, ロシア極東, 朝鮮半島 (Shinohara *et al.*, 2007).

【文献記録】たつの市揖保中 (Shinohara *et al.*, 2007).

【標本記録】加古川市本町, 加古川河川敷, 8m, 3 ♂, 2008. V. 6, 吉田浩史; たつの市今市, 11 ♂ 4 ♀, 2009. V. 10, 松本吏樹郎 (OMNH); たつの市揖保, 揖保川右岸, 4 ♂, 2009. V. 10, 市川顕彦 (OMNH); たつの市揖保川町野田, 揖保川河川敷, 10m, 9 ♂ 2 ♀, 2011. V. 13, 吉田浩史 (NSMT); たつの市揖保川町新在家, 揖保川河川敷, 15m, 4 ♂, 2012. IV. 29, 吉田浩史 (NSMT).

Arge indicura Shinohara & Hara, 2009

シリグロチュウレンジ

【寄主植物】ミツバツチグリ, ワレモコウ (飼育下ではオヘビイチゴ, エゾヘビイチゴ, ヘビイチゴも摂食) (Shinohara & Hara, 2009).

【分布】本州, 四国, 九州 (Shinohara & Hara, 2009).

【標本記録】関宮町杉ヶ沢高原, 大河内町砥峰高原, 南光町るり寺, 佐用町海内, 加美町的場, 市川町小畑, 笠形山? (Shinohara & Hara, 2009).

【備考】従来, *A. nigrovaginata* Malaise, 1931 とされていた種であるが, Shinohara & Hara (2009) により日本産の個体群が別種として新たに記載された。なお, 上記データには内藤ら (2004) においてチュウレンジバチ及びニホンチュウレンジと同一とされていたものが含まれる。

Arge meliosmae Shinohara & Hara, 2011

アワブキチュウレンジ

【寄主植物】アワブキ (Shinohara *et al.*, 2011).

【分布】本州 (Shinohara *et al.*, 2011).

【文献記録】宍粟市赤西溪谷 (Shinohara *et al.*, 2011).

Arge naokoae Shinohara & Hara, 2013

シモツケチュウレンジ

【寄主植物】イブキシモツケ (飼育下ではコデマリも産卵・摂食) (Shinohara & Hara, 2013a).

【分布】本州, 四国 (Shinohara & Hara, 2013a).

【文献記録】宝塚市武田尾 (Shinohara & Hara, 2013a).

Arge obesa Hara & Shinohara, 2012

マルウンモンチュウレンジ

【寄主植物】サワシバ, アカシデ, イヌシデ, アサダ (Hara *et al.*, 2012).

【分布】北海道, 本州, 四国, 九州 (Hara *et al.*, 2012).

【文献記録】佐用町奥海, 篠山市 Kogane (小金岳?)・藤岡 (Hara *et al.*, 2012).

Arge simillima (F. Smith, 1874)

【分布】本州; 中国, 東シベリア

【文献記録】Hiogo (Smith, 1874).

【備考】本種の模式産地は「Hiogo」である (Smith, 1874).

ただし, 原記載以降の兵庫県内からの記録はなく, それ以外の国内の記録も, 南アルプスの北沢からの一例のみである。「Hiogo」は現在の神戸市またはその周辺であるが, この記録は Takeuchi (1939) 及び Shinohara & Hara (2007) では疑問視されている。

このため, 本種の記録は保留として兵庫県産の記録に含めない。

Arge suzukii (Matsumura, 1912)

ツクバネチュウレンジ

【寄主植物】コツクバネウツギ, ツクバネウツギ, ベニバナノツクバネウツギ (飼育下ではアベリア (ハナツクバネウツギ) も摂食する) (Shinohara & Hara, 2008).

【分布】本州, 四国, 九州 (Shinohara & Hara, 2008).

【文献記録】神戸市六甲, 播磨, 宝塚市武田尾・大原野, 西脇

市西林寺, 篠山市小金岳・浜谷・藤坂, 氷上町三方, 波賀町原, 佐用町若洲 (Shinohara & Hara, 2008).

【備考】従来, *A. abelivora* Okutani, 1956 とされていた種であるが, Shinohara & Hara (2008) により上記種のシノニムとされた。

なお, 上記データには内藤ら (2004) においてウンモンチュウレンジと同定されていたものが含まれる。また, Shinohara & Hara (2008) において挙げられていた篠山市藤岡産の個体は後に別種マルウンモンチュウレンジとされた。

Spinarge affinis Hara & Shinohara, 2006

ホソトゲチュウレンジ

【寄主植物】コバノミツバツツジ, トウゴクミツバツツジ (Shinohara & Hara, 2010); シロヤシオ (ゴヨウツツジ), ムラサキヤシオツツジ (Shinohara & Hara, 2013b).

【分布】北海道, 本州, 四国, 九州 (Hara & Shinohara, 2006; Shinohara & Hara, 2013b).

【文献記録】段ヶ峰, 妙見山, 夢前 (Hara & Shinohara, 2006), 加東, 神戸市山田町 (Shinohara & Hara, 2010).

Spinarge fulvicornis (Mocsáry, 1909)

ツノキトゲチュウレンジ

【寄主植物】アズキナシ, ナナカマド (Hara & Shinohara, 2006), カマツカ, ズミ (Shinohara & Hara, 2010).

【分布】北海道, 本州, 四国; サハリン, 朝鮮半島, 中国 (Hara & Shinohara, 2006).

【文献記録】畑ヶ平, 妙見山, 大屋町横河溪谷, 雪彦 (Hara & Shinohara, 2006).

【備考】これまでツノキウンモンチュウレンジ *Arge fulvicornis* とされてきた種。ただし, 従来のツノキウンモンチュウレンジの記録には別種が含まれている。現時点での兵庫県内からの確実な記録は上記のとおり。

Spinarge prunivora Hara & Shinohara, 2006

サクラトゲチュウレンジ

【寄主植物】オオヤマザクラ, ソメイヨシノ (Hara & Shinohara, 2006).

【分布】北海道, 本州, 九州; 朝鮮半島 (Hara & Shinohara, 2006; Shinohara & Hara, 2013b).

【文献記録】篠山, 神戸市藍那 (Hara & Shinohara, 2006), 吉田 (2002) において神戸市藍那から記録されたツノキウンモンチュウレンジは本種である。

Spinarge pumila Hara & Shinohara, 2006

ヒメトゲチュウレンジ

【寄主植物】ホツツジ (Shinohara & Hara, 2011).

【分布】本州 (Hara & Shinohara, 2006).

【文献記録】霧滝, 篠山市小金岳 (Hara & Shinohara, 2006).

Tenthredinidae ハバチ科
Selandriinae シダハバチ亜科

Nesoselandria ventralis Takeuchi, 1941

キバラコハバチ

【分布】本州 (Takeuchi, 1941); 中国 (Nie & Wei, 1999).

【文献記録】佐用町船越 (藤江ら, 2011).

Nipponorhynchus bimaculatus Naito, 1973

ヒダクチナガハバチ

【寄主植物】イワボタン (中村, 2008).

【分布】本州 (Naito, 1973).

【文献記録】宍粟市音水溪谷, 新温泉町扇ノ山 (兵庫県, 2012).

【備考】環境省の第4次レッドリストにおいて情報不足 (DD) に (環境省, 2012), 兵庫県版レッドデータブック 2012 において C ランク (兵庫県, 2012) に選定されている。

Nipponorhynchus mirabilis Takeuchi, 1941

クチナガハバチ

【寄主植物】ネコノメソウ類 (兵庫県, 2012).

【分布】本州 (Takeuchi, 1941), 九州 (Togashi, 1972).

【文献記録】宍粟市赤西溪谷, 新温泉町扇ノ山 (兵庫県, 2012).

【標本記録】扇ノ山, 900m, 3 ♂ 1 ♀, 2007. V. 8, 内藤親彦 (NSMT).

【備考】環境省の第4次レッドリストにおいて情報不足 (DD) に (環境省, 2012), 兵庫県版レッドデータブック 2012 において C ランク (兵庫県, 2012) に選定されている。

Strongylogaster takeuchii Naito, 1980

タケウチナガシダハバチ

【分布】本州 (Naito, 1980); 中国 (Nie & Wei, 1999).

【標本記録】佐用町本郷, 200m, 1 ♀, 2007. IV. 29, 内藤親彦 (NSMT).

Strongylogaster xanthocera (Stephens, 1835)

ツノキナガワラビハバチ

【寄主植物】ワラビ (Naito, 1996).

【分布】北海道, 本州, 四国; 中国, シベリア, ヨーロッパ (Naito, 1996).

【標本記録】笠形山, 400m, 2 ♂ 2 ♀, 2008. V. 1, 内藤親彦 (NSMT); 揖保郡太子, 100m, 1 ♀, 2009. IV. 16, 内藤親彦 (NSMT).

【備考】国内からは Naito (1996) により初めて記録された。国内の分布記録は, 国立科学博物館の標本・資料統合データベースによる記録を含む。

Nematinae ヒゲナガハバチ亜科

Pristiphora punctifrons (Thomson, 1871)

【分布】本州; 東シベリア, 中央アジア, モンゴル, コーカサス, ヨーロッパ (Haris, 2006; Haris & Zsolnai, 2007).

【文献記録】氷ノ山 (Haris & Zsolnai, 2007).

Haris & Zsolnai (2007) では, 分布記録が “Hyonozen Sajima” と記されているが, “Hyonoson, Tajima” の誤りである.

Pristiphora shinoharai Haris & Zsolnai, 2007

【分布】本州.

原記載 (Haris & Zsolnai, 2007) では, 模式産地は Kyushu, “Sarayama, Jamba” と記されているが, “Sasayama, Tamba” の誤りで, 分布域は本州である.

【文献記録】篠山 (Haris & Zsolnai, 2007).

Allantinae ハグロハバチ亜科

Allantus rhododendri Togashi, 2003

ツツジセグロハバチ (図 4)

【寄主植物】コバノミツバツツジ (Togashi, 2003).

【分布】本州 (Togashi, 2003).

【標本記録】神戸市北区道場町生野, 150m, 1 ♀, 2012. V. 14, 吉田浩史.

Empria honshuana Prous & Heidemaa, 2011 (図 5, 6)

【分布】本州 (Prous *et al.*, 2011).

原記載では, 東京・栃木・埼玉・千葉の各都県から記録されている (Prous *et al.*, 2011).

【標本記録】神戸市北区山田町藍那, 250m, 1 ♂, 2000. IV. 9, 吉田浩史; 同, 1 ♀, 2000. IV. 30, 吉田浩史; 神戸市中央区再度山, 1 ♂, 2000. IV. 22, 吉田浩史.

【備考】日本産マドハバチ属 *Empria* は, Prous *et al.* (2011) により再検討結果が報告された. 後述の分類資料等を参照.

内藤ら (2004) により次種マドハバチとして報告された種の中には, 別種が混在している可能性がある. 今回は筆者が同定したものを記録しておく.

Empria quadrimaculata Takeuchi, 1952

マドハバチ (図 7, 8)

【分布】本州, 四国, 九州 (Prous *et al.*, 2011).

【標本記録】神戸市中央区再度山, 400m, 2 ♂, 2000. IV. 22, 吉田浩史; 神戸市中央区再度東谷, 350m, 1 ♀, 2001. IV. 14, 吉田浩史; 同, 1 ♀, 2002. IV. 14, 吉田浩史; 神戸市兵庫区鳥原町, 100m, 1 ♀, 2012. IV. 28, 吉田浩史; 神戸市北区山田町藍那, 250m, 1 ♀, 1997. IV. 26, 吉田浩史; 同, 1 ♀, 1997. V. 4, 吉田浩史; 同, 1 ♀, 1999. V. 1, 吉田浩史; 同, 3 ♂, 2000. IV. 23, 吉田浩史; 同, 1 ♂ 1 ♀, 2000. IV. 30, 吉田浩史; 同, 1 ♀, 2000. V. 4, 吉田浩史; 同, 1 ♀, 2004. IV. 10, 吉田浩史.

Empria takeuchii Prous & Heidemaa, 2011

【分布】北海道, 本州 (Prous *et al.*, 2011).

原記載では, 北海道・東京・山梨・栃木・長野・石川・京都・大阪・鳥取の各都道府県から記録されている (Prous *et al.*, 2011).

【標本記録】神戸市北区道場町, 1 ♀, 2012. V. 18, 吉田浩史 (NSMT).

Eriocampa babai Togashi, 1980

【寄主植物】ヤブデマリ (Togashi & Nagase, 1992).

【分布】本州 (Togashi, 1980).

【文献記録】畑ヶ平 (Togashi, 1980).

【備考】内藤ら (2004) の作成時に文献記録を見落としていたので追記しておく.

Eriocampa kurumivora Togashi, 1980

クルミマルハバチ (図 9)

【寄主植物】オニグルミ (Togashi, 1980).

【分布】本州 (Togashi, 1980).

【標本記録】たつの市揖保中, 揖保川河川敷, 10m, 2 ♂, 2007. V. 3, 吉田浩史; たつの市今市, 揖保川河川敷, 10m, 1 ♂, 2007. V. 3, 吉田浩史.

Tenthredininae ハバチ亜科

Corymbas chujoi Togashi, 1972

チュウジョウコシジロハバチ (図 10)

【分布】本州 (富樫, 1983), 九州 (Togashi, 1972).

【文献記録】神戸市北区藍那 (吉田, 2002; *Corymbas* sp. とし て記録).

Pachyprotasis youngiae Inomata & Naito, 2006

オニタビラコキモンハバチ

【寄主植物】オニタビラコ / 瘦果 (Naito & Inomata, 2006).

【分布】本州, 九州; 朝鮮半島 (Naito & Inomata, 2006).

【文献記録】上山高原, 神戸市六甲山, 西脇, 塚塚, 篠山 (Naito & Inomata, 2006), 神戸市北区藍那 (吉田, 2002; *Pachyprotasis* sp. 2 とし て記録).

Siobla apicalis Takeuchi, 1929

ツマジロコシアカハバチ (図 11, 12)

【分布】本州, 四国, 九州; 朝鮮半島 (Shinohara *et al.*, 2013).

本州では青森, 岩手, 福島, 群馬, 埼玉, 東京, 神奈川, 新潟, 山梨, 静岡, 長野, 岐阜, 石川, 滋賀, 奈良, 兵庫, 鳥取の各都県から記録がある (Shinohara *et al.*, 2013) 他, 筆者は岡山, 山口産の標本を検した (未発表).

【文献記録】ハチ高原, 扇ノ山, 氷ノ山, 畑ヶ平 (Shinohara *et al.*, 2013).

【備考】日本産コシアカハバチ属 *Siobla* は, Shinohara *et al.* (2013) により再検討結果が報告された. 後述の分類資料等を

参照.

Siobla ferox (F. Smith, 1874)

オオコシアカハバチ (図 13)

【分布】北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬; 中国, 朝鮮半島 (Shinohara *et al.*, 2013).

本州では岩手, 福島, 新潟, 群馬, 栃木, 埼玉, 東京, 神奈川, 山梨, 長野, 岐阜, 静岡, 石川, 福井, 滋賀, 三重, 京都, 奈良, 和歌山, 大阪, 兵庫, 岡山, 鳥取, 島根, 山口の各都府県から記録がある (Shinohara *et al.*, 2013).

【文献記録】神戸市有馬, 波賀町赤西溪谷, 妙見山, 篠山, 柏原, 雪彦, 畑ヶ平, 氷ノ山 (Shinohara *et al.*, 2013), 神戸市北区藍那 (吉田, 2002; *Siobla* sp. として記録).

【標本記録】神戸市灘区六甲山, 700m, 2 ♀, 2011. VI. 3, 吉田浩史 (NSMT); 同, 1 ♂, 2012. V. 19, 吉田浩史 (NSMT); 同, 5 ♂, 2013. V. 24, 吉田浩史 (NSMT); 同, 1 ♀, 2013. VI. 7, 吉田浩史 (NSMT); 神戸市北区山田町藍那, 250m, 1 ♀, 2013. VI. 7, 吉田浩史 (NSMT); 西宮市武田尾, 武庫川, 1 ♂, 2001. V. 13, 河上康子 (OMNH); 美方郡美方町備~高丸山, 950m, 1 ♀, 2002. V. 25, 桂孝次郎 (OMNH); 美方郡香美町鉢伏山, 980m, 2 ♂, 2012. VI. 10, 吉田浩史 (NSMT); 同, 5 ♂, 2012. VI. 23, 吉田浩史 (NSMT); 養父郡大屋町氷ノ山南麓, 1250-1350m, 1 ♂, 1999. VI. 13, 春沢圭太郎 (OMNH).

Siobla hirasana Takeuchi, 1929 (図 14, 15)

【分布】本州, 四国, 九州 (Shinohara *et al.*, 2013).

本州では青森, 岩手, 山形, 福島, 新潟, 栃木, 群馬, 茨城, 東京, 神奈川, 山梨, 静岡, 長野, 岐阜, 石川, 三重, 滋賀, 京都, 和歌山, 奈良, 大阪, 兵庫, 鳥取, 広島, 島根の各都府県から記録がある (Shinohara *et al.*, 2013).

【文献記録】妙見 (但馬), Takinoyu (建屋?), 関宮 (Shinohara *et al.*, 2013).

【標本記録】美方郡香美町鉢伏山, 980m, 1 ♂, 2011. VII. 6, 吉田浩史.

Siobla japonica Shinohara, Wei & Niu, 2013 (図 16)

【分布】本州 (Shinohara *et al.*, 2013).

青森, 秋田, 宮城, 福島, 群馬, 埼玉, 東京, 神奈川, 山梨, 静岡, 新潟, 長野, 岐阜, 石川, 福井, 奈良, 兵庫, 鳥取の各都府県から記録がある (Shinohara *et al.*, 2013) 他, 筆者は岡山産を検した (未発表).

【文献記録】音水溪谷 (Shinohara *et al.*, 2013).

【備考】記録を見る限り本州東部では普通にみられるようであるが, 近畿・中国地方では少ない.

Siobla metallica Takeuchi, 1929

ルリコシアカハバチ (図 17)

【分布】本州, 四国 (Shinohara *et al.*, 2013).

本州では岩手, 栃木, 群馬, 埼玉, 東京, 金沢, 山梨, 新潟, 長野, 岐阜, 石川, 滋賀, 兵庫の各都府県から記録がある (Shinohara *et al.*, 2013) 他, 岡山県版レッドデータブック 2009 では準絶滅危惧に選定されており (岡山県, 2010), また筆者は鳥取産を検している (未発表).

【文献記録】音水 (Shinohara *et al.*, 2013), 波賀町赤西溪谷・坂ノ谷林道, 温泉町, 関宮町氷ノ山 (内藤ら, 2004).

【備考】環境省の第4次レッドリストにおいて情報不足 (DD) に選定されている (環境省, 2012). ただし, 場所によりまとまった個体がみられることがある.

Siobla pulchra Shinohara, Wei & Niu, 2013 (図 18)

【分布】北海道, 本州 (Shinohara *et al.*, 2013).

本州では栃木, 長野, 兵庫の各県から記録がある (Shinohara *et al.*, 2013) 他, 山口から *Siobla* sp.1 として記録されている (田中・田中, 2007).

【文献記録】温泉町扇ノ山, 波賀町原 (赤西) (Shinohara *et al.*, 2013).

Siobla sturmii (Klug, 1818)

コシアカハバチ

【分布】北海道, 本州, 九州; 朝鮮半島, 千島, サハリン, シベリア, ロシア極東, ヨーロッパ (Shinohara *et al.*, 2013).

本州では岩手, 宮城, 栃木, 群馬, 山梨, 長野, 京都, 兵庫の各府県から記録がある (Shinohara *et al.*, 2013).

【文献記録】畑ヶ平, 氷ノ山, 音水, 赤西, 波賀町堀 (Shinohara *et al.*, 2013).

【標本記録】美方郡香美町鉢伏山, 980m, 1 ♂ 1 ♀, 2012. VI. 23, 吉田浩史 (NSMT).

Siobla takeuchii Shinohara, Wei & Niu, 2013 (図 19)

【分布】北海道, 本州, 九州 (Shinohara *et al.*, 2013).

本州では岩手, 福島, 新潟, 群馬, 栃木, 埼玉, 東京, 神奈川, 山梨, 静岡, 長野, 岐阜, 石川, 福井, 三重, 滋賀, 京都, 和歌山, 奈良, 兵庫の各都府県から記録がある (Shinohara *et al.*, 2013).

【文献記録】氷ノ山, 畑ヶ平, 扇ノ山, 音水, 赤西 (Shinohara *et al.*, 2013).

【標本記録】美方郡香美町鉢伏山, 980m, 1 ♂, 2012. VI. 23, 吉田浩史 (NSMT).

Siricidae キバチ科

Eriotremex yamasakii Togashi, 1990

ニセタイワンヒラアシキバチ

【分布】本州 (Togashi, 1990).

【標本記録】三田市有馬富士, 1 ♀, 2004. VII. 25, 森本健太郎 (OMNH).

Tremex contractus Maa, 1949

カタマルヒラアシキバチ

【寄主植物】コナラ (中浜ら, 2006).

【分布】本州, 四国; 中国, 朝鮮半島 (Maa, 1949; 竹内, 1955; Lee *et al.*, 1998; 岡山県, 2003).

【文献記録】三田市虚空蔵山, 篠山市小金ヶ嶽 (中浜ら, 2006).

Xiphydriidae クビナガキバチ科

Platyxiphydria miyakei Togashi, 1963

ミヤケヒラタクビナガキバチ (図 20)

【寄主植物】ホオノキ (山田, 2000).

【分布】本州, 四国, 九州 (Togashi, 1963; 1974).

【標本記録】波賀町赤西溪谷, 1 ♀, 2001. VI. 10, 松本史樹郎 (OMNH).

分類資料等

近年国内産の種について分類学的再検討が行われた, ハバチ科ハグロハバチ亜科のマドハバチ属 *Empria* 及びハバチ亜科のコシアカハバチ属 *Siobla* について, 以下の通り分類資料を作成した. なお, 両属ともその外見から属の同定は比較的容易であるが, 属までの検索が必要な場合には吉田 (2006), 内藤・吉田 (2006; 2013) 等をご参照頂きたい.

1. マドハバチ属 *Empria*

ハバチ科ハグロハバチ亜科に属する小型のハバチ類で, 黒色の腹部に独特の光沢のある 2 列の淡色紋を持つことが特徴である.

日本産本属については, 2 種の既知種と約 7 種の未同定種があるとされていた (Takeuchi, 1952; 阿部・富樫, 1989) が, その後長い間検討されていなかった.

2011 年に Prous, Heidemaa, Shinohara & Soon により再検討結果が報告され, 11 種に整理された. このうち本州から記録のある 5 種についての検索表を以下に示した (Prous *et al.*, 2011 の検索表を参考に再構成を行った).

また, 従来本属とされていたウスキアシハバチは別属に移され, 学名は *Monsoma pallipes* (Matsumura, 1912) とされた.

なお, 北海道からは本属が 9 種と前出のウスキアシハバチが記録されている. 四国と九州からは現時点ではマドハバチ 1 種が記録されるのみであるが, 今後追加される可能性がある.

■本州産マドハバチ属 *Empria* の検索

1a. メス → 2

1b. オス → 6

2a. 腹部の斑紋は 5 - 6 対で大きい

マーラースペースは広く, 後単眼直径の 2 倍を超える. 足の爪は二叉する. 頭盾には通常淡色部があるが, 全体黒色の個体もいる. 肩板は淡色. 本州では山形から記録があるのみ

→ *E. plana* (Jakowlew, 1891)

2b. 腹部の斑紋は 2 - 4 対, 個体により後方の斑紋が小さくなる → 3

3a. 脚の転節は黒色 → 4

3b. 脚の転節は淡色 → 5

4a. 後単眼区は, 通常横幅が長さの 2.1 - 2.5 倍 (まれに 1.9 倍). 腹部の斑紋は通常第 2・3 節の 2 対, 個体により第 4 節に 3 対目があるが, 前 2 対に比べ小さい. 後脛節は前半の淡色部が後半の黒色部より長い

→ *E. quadrimaculata* Takeuchi, 1952

4b. 後単眼区は, 横幅が長さの 1.5 - 2.1 倍. 腹部の斑紋は 3 対または 4 対. 後脛節は前半の淡色部が後半の黒色部より短い

→ *E. honshuana* Prous & Heidemaa, 2011

5a. 触角鞭節は, 頭幅の 2 倍以下の長さ. 腹部の斑紋は第 2 - 5 節の 4 対で比較的大きい

→ *E. takeuchii* Prous & Heidemaa, 2011

5b. 触角鞭節は, 頭幅の 2 倍より明らかに長い. 腹部の斑紋は第 2 - 4 節の 3 対で, すべて小さい

→ *E. tridentis* Lee & Ryu, 1996

6a. 後単眼区は, 横幅が長さの 2.2 - 2.5 倍 (まれに 2.1 倍). 後転節は黒色.

→ *E. quadrimaculata* Takeuchi, 1952

6b. 上記の両方を満たさない → 7

7a. マーラースペースは後単眼直径の 1.9 倍以上

→ *E. plana* (Jakowlew, 1891)

7b. マーラースペースは後単眼直径の 1.8 倍以下 → 8

8a. 脚の転節は黒色

→ *E. honshuana* Prous & Heidemaa, 2011

8b. 脚の転節は淡色 → 9

9a. 後単眼区は, 横幅が長さの 2.0 - 2.7 倍. 触角鞭節は, 頭幅の 2.2 - 2.7 倍. 次種との区別は交尾器の形状によるものが確実である (詳細は Prous *et al.* (2011) を参照)

→ *E. takeuchii* Prous & Heidemaa, 2011

9b. 後単眼区は, 横幅が長さの 1.9 - 2.4 倍. 触角鞭節は, 頭幅の 2.6 - 3.7 倍

→ *E. tridentis* Lee & Ryu, 1996

2. コシアカハバチ属 *Siobla*

ハバチ科ハバチ亜科に属する大～中型のハバチ類である。多くの種ではコシアカハバチの名のとおり、腹部前半に橙黄色の幅広い横帯を持つが、体の大半がルリ色や黒色の種、また日本からは記録されていないが大半が黄褐色の種もある。一部の種では雌雄の色彩が大きく異なり、また個体変異も種により大きく、同定が困難な場合もある。

日本産本属については、Shinohara *et al.* (2013) において再検討結果が報告され、3 新種を含む 9 種に整理された。

なお、筆者は吉田 (2006) において本属の検索表を作成したが、検討が不十分であったため、これに従うと一部の種は別種と同定される。訂正を兼ねて以下の通り検索表を作成した (Shinohara *et al.*, 2013 の検索表を参考に再構成を行った)。

■日本産コシアカハバチ属 *Siobla* の検索

1a. ほぼ全身がルリ色で強い光沢がある (図 17)

→ *S. metallica* Takeuchi, 1929

ルリコシアカハバチ

1b. 体色は主に黒色と橙黄色～黄褐色で、ルリ色とはならない → 2

2a. 触角の先端の数節は白色、まれに全体黒色。メスの腹部に橙黄色の部分はない (図 11)。オスメスで腹部の色彩が大きく異なり、メスは一見するとコシジロハバチ属 *Corymbas* の種に似る。

→ *S. apicalis* Takeuchi, 1929

ツマジロコシアカハバチ

2b. 触角の色彩は黒色または黄褐色からなり、白色部はない → 3

3a. 小盾板は黄褐色。個体により黄褐色部が狭くなる → 4

3b. 小盾板は黒色 → 6

4a. 前翅の先端部は明瞭に暗色となる。後脛節の黒色部は小さい。腹部腹面側は大半黄褐色 (図 18)

→ *S. pulchra* Shinohara, Wei & Niu, 2013

4b. 前翅はほぼ一様に透明で黄色味を帯びる (図 13, 14)。後脛節前半は黒色。腹部腹面側の黒色部は背面側とほぼ同様 → 5

5a. 肩板, Mesoscutellar appendage (小盾板後方の逆三角形の部分), 腹部第 1 背板 (個体により一部黒色), 前・中転節は黄褐色 (図 13)

→ *S. ferox* (F. Smith, 1874)

オオコシアカハバチ

5b. 肩板 (個体により一部黄褐色), Mesoscutellar appendage, 腹部第 1 背板, 前・中転節は黒色 (図 14)

→ *S. hirasana* Takeuchi, 1929

6a. 触角の少なくとも前半は黒色 → 7

6b. 触角の少なくとも前半は黄褐色 → 9

7a. 触角は全体黒色。メスでは個体により鞭節基部 2 節までに狭い褐色部を持つことがある。後脚の基節・転節・腿節は全体黒色。色彩変異が大きく、腹部の黄褐色帯が消失することがある。小型種で、体長はメスでは 9.5 ~ 12.0mm, オスでは 7.5 ~ 11mm。ほぼ全体が黒化した個体 (図 15) は、一見クロハバチ属 *Macrophya* の種に似る

→ *S. japonica* Shinohara, Wei & Niu, 2013

7b. 触角は通常基部側が黄褐色。後脚の転節・腿節に黄褐色～黄白色の部分がある。腹部前半に黄褐色の横帯を持つ。やや大型で、体長はメスでは 11.0 ~ 15.5mm, オスでは 9.5 ~ 14.0mm → 8

8a. オスのみ (メスは検索表 5b を参照)。後転節は黄白色、まれに一部が暗色を帯びる。通常は小盾板に黄褐色部を持つが、オスではまれに黄褐色部が消失することが確認されている

→ *S. hirasana* Takeuchi, 1929 (オスの一部)

8b. 後転節は黒色～暗褐色

→ *S. takeuchii* Shinohara, Wei & Niu, 2013

9a. 後脛節は全体黒色。メスの触角は基部側に黒色部がある。産卵管鞘は中脛節とほぼ同長。オスの東部の毛は黒色で直線状

→ *S. jucunda* (Mocsáry, 1909)

9b. 後脛節に黄褐色部がある。メスの触角は通常黒色部を持たない。産卵管鞘は中脛節より短い。オスの頭部の毛は褐色で、先端部はやや曲がる

→ *S. sturmi* (Klug, 1818)

参考文献

阿部正喜・富樫一次, 1989. ハバチ亜目. 平嶋義宏 (監修), 日本産昆虫総目録 II. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編集: 541-560.

Blank, S. M., Shinohara, A. & Byun, B.-K., 2005. The East Asian *Xyela* species (Hymenoptera: Xyelidae) associated with Japanese red pine (*Pinus densiflora*; Pinaceae) and their distribution history. *Insect Systematics & Evolution*, 36(3): 259-278.

藤江隼平・吉田浩史・安達誠文・吉田貴大・旭和也・藤原淳一・安岡拓郎, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆虫相 - マレーゼトラップで得られた甲虫目, 膜翅目, 双翅目およびライトトラップで得られた鱗翅目の昆虫について -, きべりはむし, 33(2): 4-20.

Hara, H. & Shinohara, A., 2006. The sawfly genus *Spinarge* (Hymenoptera, Argidae). *Bull. Natn. Sci.*

- Mus., Tokyo, Series A, 32(2): 61-94.
- Hara, H. & Shinohara, A., 2008. The species-group of *Arge aenea* (Insecta, Hymenoptera, Argidae). Bull. Natn. Sci. Mus., Series A, 34(2): 77-94.
- Hara, H. & Shinohara, A., 2012. *Arge aruncus* n. sp. (Hymenoptera, Argidae) feeding on *Aruncus dioicus* in Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 38(2): 75-87.
- Hara, H., Shinohara, A. & Ibuki, S., 2012. *Arge obesa* n. sp. (Hymenoptera, Argidae) feeding on *Carpinus* and *Ostrya* in Japan, with taxonomic notes on *Hylotoma japonica*. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 38(3): 125-143.
- Haris, A., 2006. Study on the Palaearctic *Pristiphora* species (Hymenoptera: Tenthredinidae). Natura Somogyiensis, 9: 201-277.
- Haris, A. & Zsolnai, B., 2007. New Nematinae species (Hymenoptera: Symphyta, Tenthredinidae) from Japan and Korea. Zoologische Mededelingen, 81(7): 137-147.
- 兵庫県, 2012. 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2012(昆虫類). 72pp. 編集 / 兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課, 発行 / 財団法人ひょうご環境創造協会.
- 環境省, 2012. 第4次レッドリストの公表について. (<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>)
- Lee, J.-W., Ryu, S.-M. & Chung, D.-K., 1998. Taxonomy of the genus *Tremex* Jurine (Hymenoptera: Siricidae) from Korea, with descriptions of one new species and one unrecorded species. Korean J. Biol. Sci., 2: 297-302.
- Maa, T., 1949. A synopsis of Asiatic Siricoidea with notes on certain exotic and fossil forms. Notes D'Entomologie Chinoise, 13(2): 11-189.
- Naito, T., 1973. A new species of *Nipponorhynchus* Takeuchi from Japan (Hymenoptera, Tenthredinidae). Kontyu, 41(1): 95-96.
- Naito, T., 1980. Studies on the Japanese sawflies of the genus *Strongylogaster* Dahlbom. Kontyu, 48(3): 390-401.
- Naito, T., 1996. Phylogeny of the fern associated sawfly genus *Strongylogaster* Dahlbom (Hymenoptera: Tenthredinidae). Memoirs of the Entomological Society of Washington, 17: 161-178.
- Naito, T. & Inomata, R., 2006. A new triploid thelytokous species of the genus *Pachyprotasis* Hartig, 1837 (Hymenoptera: Tenthredinidae) from Japan and Korea. In: Blank, S. M., Schmidt, S. & Taeger, A. (eds), Recent Sawfly Research, Synthesis and Prospects: 279-283. Goecke & Evers, Keltern.
- 内藤親彦・吉田浩史, 2006. ハバチ・キバチ類(ハチ目広腰亜目)の絵解き検索. 日本環境動物昆虫学会 第16回講演会テキスト, 環境アセスメント動物調査手法, 16: 1-23.
- 内藤親彦・吉田浩史, 2013. ハバチ・キバチ類(ハチ目広腰亜目)の絵解き検索. 日本環境動物昆虫学会 編, 初宿成彦 監修, 絵解きで調べる昆虫 ~ 環境アセスメント動物調査手法講演会 絵解き検索シリーズ総集編~, 79-101. (注: 上記の内藤・吉田(2006)に訂正を加えたのみで, 内容はほぼ同じ)
- 内藤親彦・吉田浩史・中峰空・森田年則・池田隆直・鈴木壽也・中西明德, 2004. 兵庫県におけるハバチ類の種多様性. 兵庫県立人と自然の博物館 自然環境モノグラフ, (1): 10pl + 85pp.
- 中浜直之・辻秀幸・森本健太郎・松本吏樹郎, 2006. カタマルヒラアシキバチの大阪および兵庫における記録と生態的知見. Nature Study, 52(12): 5-6.
- 中村和夫, 2008. シダハバチ亜科希少種の分布と生態. 昆虫と自然, 43(3): 24-29.
- Nie, H. & Wei, M., 1999. New Records of Species in Tenthredinoidea (Hymenoptera) to China. Entomotaxonomia, 21(2): 143-145.
- 岡山県, 2003. 岡山県野生生物目録. 397pp.
- 岡山県, 2010. 岡山県版レッドデータブック 2009 絶滅の恐れのある野生生物 - 動物編 -. 417pp. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
- Prous, M., Heidema, M., Shinohara, A. & Soon, V., 2011. Review of the sawfly genus *Empria* (Hymenoptera, Tenthredinidae) in Japan. Zookeys, 150: 347-380.
- Shinohara, A., 2002. *Armitarsus watanabei*, a new sawfly (Hymenoptera, Tenthredinidae) from central Honshu, Japan. Spec. Bull. Jap. Soc. Coleopterol., (5): 473-479.
- Shinohara, A. & Hara, H., 2008. Taxonomy, distribution and life history of *Abelia*-feeding sawfly, *Arge suzukii* (Hymenoptera, Argidae). Jpn. J. syst. Ent., 14(1): 29-47.
- Shinohara, A. & Hara, H., 2009. *Arge indicula* n. sp. feeding on *Potentilla* and *Sanguisorba* (Insecta, Hymenoptera, Argidae) from Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Series A, 35(1): 55-71.
- Shinohara, A. and H. Hara 2010. Host plants, larvae and life history of *Spinarge affinis* and *S. fulvicornis* (Hymenoptera, Argidae) in Japan. Jpn. J. syst. Ent., 16(1): 47-62.

- Shinohara, A. & Hara, H., 2011. Host plant, larva and life history of *Spinarge pumila* (Hymenoptera, Argidae) in Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 37(4): 203-208.
- Shinohara, A. & Hara, H., 2013a. *Arge naokoae* n. sp. (Hymenoptera, Argidae) feeding on *Spiraea dasyantha* in Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 39(1): 21-38.
- Shinohara, A. & Hara, H., 2013b. New distribution and host records for *Spinarge prunivora* and *S. affinis* (Hymenoptera, Argidae) from Japan. Jpn. J. syst. Ent., 19(1): 101-106.
- Shinohara, A., Ibuki, S. & Hara, H., 2011. *Arge meliosmae* n. sp. (Hymenoptera, Argidae) feeding on *Meliosma myriantha* in Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 37(2): 99-112.
- Shinohara, A., Yoshida, H. & Hara, H., 2007. Distribution records of willow-feeding sawfly, *Arge enodis* (Insecta, Hymenoptera, Argidae), in Japan, with notes on its immature stages and life history. Jpn. J. syst. Ent., 13(2): 359-366.
- Shinohara, A., Wei, M. & Niu, G., 2013. Revision of *Siobla* (Hymenoptera, Tenthredinidae) from Japan. Zootaxa, 3746(1): 1-40.
- Smith, F., 1874. Descriptions of new species of Tenthredinidae, Ichneumonidae, Chrysididae, Formicidae & c. of Japan. Transactions of the Entomological Society of London, 1874: 373-409.
- Taeger, A., Blank, S. M. & Liston, A. D., 2010. World Catalog of Symphyta (Hymenoptera). Zootaxa, 2580: 1-1064.
- Takeuchi, K., 1939. A systematic study on the suborder Symphyta (Hymenoptera) of the Japanese Empire (II). Tenthredo, 2(4): 393-439.
- Takeuchi, K., 1941. A systematic study on the suborder Symphyta (Hymenoptera) of the Japanese empire (IV). Tenthredo, 3(3): 230-274.
- Takeuchi, K., 1952. A generic classification of the Japanese Tenthredinidae (Hymenoptera: Symphyta). Issued in Celebration of the Sixtieth Birthday of Kichizo Takeuchi by his Friends: 1-90. Kyoto.
- 竹内吉蔵, 1955. 日本の樹蜂. あきつ, 4(1): 1-9.
- 田中伸一・田中馨, 2007. 山口県のハバチ類. 山口のむし, (6): 101-114.
- Togashi, I., 1963. The genus *Platyxiphidria* Takeuchi from Japan (Hymenoptera, Symphyta). Kontyu, 31(2): 86-90.
- Togashi, I., 1972. Sawflies of Mt. Hiko, Kyushu (Hym., Symphyta). Mushi, 46(5): 53-64.
- Togashi, I., 1974. Symphyta of Shikoku, Japan (Hymenoptera). Trans. Shikoku Ent. Soc., 12(1-2): 13-22.
- Togashi, I., 1980. Sawflies of the genus *Eriocampa* Hartig (Hymenoptera, Tenthredinidae) in Japan. Kontyu, 48(1): 35-41.
- 富樫一次, 1983. 新潟県産ハバチ類 (2) 中越地方のハバチ相. 越佐昆虫同好会々報, (56): 9-12.
- Togashi, I., 1990. A new *Eriotremex* from Japan (Hymenoptera: Siricidae). Trans. Shikoku Ent. Soc., 19(3): 105-108.
- Togashi, I., 1997. Symphyta (Hymenoptera) collected by Dr. Y. Nishijima in Hokkaido, Japan. Bull. Biogeogr. Soc. Japan, 52(1): 1-6.
- Togashi, I., 2003. A new species of the genus *Allantus* Panzer (Hymenoptera: Tenthredinidae) feeding on *Rhododendron reticulatum* D. Don (Ericaceae) in Japan. Proc. Entomol. Soc. Wash., 105(4): 896-900.
- Togashi, I. & Nagase, K., 1992. Description of the larva of *Eriocampa babai* Togashi (Hymenoptera, Tenthredinidae). Jpn. J. Ent., 60(2): 329-331.
- Wei, M., 2010. Revision of *Megabeleses* Takeuchi (Hymenoptera, Tenthredinidae) with description of two new species from China. Zootaxa, 2729: 36-50.
- 山田雅輝, 2000. 青森県から初めて記録するハバチ亜目の10種. 青森自然誌研究, (5): 53-54.
- 吉田浩史, 2002. 神戸市北区藍那のハチ類相 (1) ハバチ類. きべりはむし, 30(1): 62-65.
- 吉田浩史, 2006. 大阪府のハバチ・キバチ類. 24pls. + 128pp. 西日本ハチ研究会, 加古川.

参考サイト

国立科学博物館 標本・資料統合データベース.
<http://db.kahaku.go.jp/webmuseum/>



図 1 *Xyela tecta* ♂



図 2 *Arge enodis* ♀



図 3 *Arge enodis* ♂



図 4 *Allantus rhododendri* ♀



図 5 *Empria honshuana* ♀



図 6 *Empria honshuana* ♂



図 7 *Empria quadrimaculata* ♀



図 8 *Empria quadrimaculata* ♂



図 9 *Eriocampa kurumivora* ♂



図 10 *Corymbas chujoi* ♀



図 11 *Siobla apicalis* ♀



図 12 *Siobla apicalis* ♂



図 13 *Siobla ferox* ♀



図 14 *Siobla hirasana* ♀

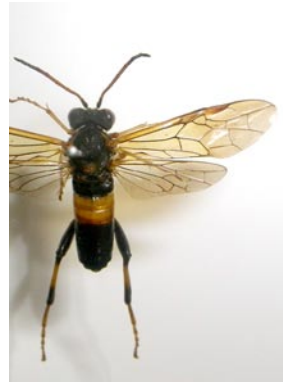


図 15 *Siobla hirasana* ♂



図 16 *Siobla japonica* ♀
(腹部の黄褐色部が消失したタイプ)



図 17 *Siobla metalica* ♂



図 18 *Siobla pulchra* ♀



図 19 *Siobla takeuchii* ♀

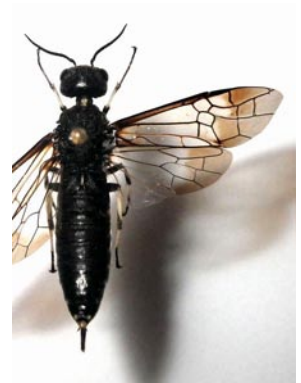


図 20 *Platyxyphridia miyakei* ♀

(注: 写真個体については, 標本の状態により選定したため, 必ずしも兵庫県産とは限らない)